

宮エスペール文化振興事業懇談会

委員の意見概要

宇都宮市教育委員会文化課

## 宮エスペール文化振興事業懇談会の検討経過

### 第1回懇談会（平成12年3月23日）

#### 【議 事】

- ア 会長，副会長の選出
- イ 本市文化振興事業の取組状況について

### 第2回懇談会（平成12年5月17日）

#### 【議 事】

- ア 事業の基本的考え方，コンセプトについて
- イ 若手芸術家の発掘について
  - ・対象者（資格要件）について
  - ・対象分野について
  - ・対象者の発掘について

### 第3回懇談会（平成12年7月7日）

#### 【議 事】

- ア 若手芸術家の発掘について
  - ・対象者の発掘について
- イ 若手芸術家の育成，支援について
  - ・賞金について
  - ・研修について
  - ・発表の機会，場の提供について
  - ・自主活動に対する支援について
- ウ 育成，支援の期間について
- エ 市民への鑑賞機会等の創出について

### 第4回懇談会（平成12年11月29日）

#### 【議 事】

- ア 宮エスペール文化振興事業に関する提言書の素案について

### 第5回懇談会（平成12年12月26日）

#### 【議 事】

- ア 宮エスペール文化振興事業に関する提言書について

提言書の提出

## 宮エスペール文化振興事業懇談会の意見

第1回～第3回懇談会の議題と意見は下記のとおり

### 1 事業の基本的考え方について

市民芸術祭の現在の審査員がかつては応募者で、賞を受けたことのある人たちもいる。若手を育成していくことは今後につながる。

育成を前面に出した事業とすべきである。

民間の美術館等の閉館が相次ぐなど、芸術環境が厳しい中、宇都宮市が若手芸術家の育成事業をはじめるとは、もろてを上げて歓迎する。この事業を通して21世紀を担う人材が育成できれば幸い。

道路や建物といったハードの事業ではなく、心をつくっていく事業であり、大いに歓迎する。皆様の英知により素晴らしい若者が育っていけるようなアイデアを懇談会で出し合っていきたい。

### 2 若手芸術家の発掘について

対象者（資格要件）について

#### ア 対象者は「個人」か「個人・団体」か

個人が中心になってくると思うが、団体にも間口を広げておく。

当初、個人を対象にスタートし、回を重ねてから団体にも間口を広げていく方法がよいのではないか。

若手芸術家を支援する団体も対象にしてはどうか。

芸術家をサポートする団体まで含めると、このエスペール事業としては間口を広げすぎと思う。

考え方として対象者の資格要件を決めない考え方もある。

#### イ 対象者の住所、所在地等の要件

宇都宮市民へ還元ということに係わってくるので、宇都宮にゆかりのある人が相応しい。宇都宮の文化振興が主体、芸術文化振興の環境づくりの意味からも宇都宮ゆかりの人までを対象にする。

この事業は県の事業とは意味が異なっている。宇都宮にゆかりのある人を対象に、宇都宮発、宇都宮から育っていくことに意味がある。

市民の税金を使っていくからには、何らかの形で還元が必要。そして対象者は宇都宮にかかりのある人が相応しい。

## ウ 対象者の年齢要件

年齢は、広げてしまうと選考に苦慮する。しかし、あまり制限してしまうと支援すべき人が救えないことがあるので、漠然と各分野毎に定めることがよい。

県で実施しているコンセール・マロニエの応募年齢は、プロの世界（専門の先生方）で決めている。年齢についてはジャンル別で決めることになるのではないか。一律にはいかないのではないか。

### 対象分野について

対象分野については全分野とすべき。

対象分野は全分野とし、県で実施している洋楽（弦楽器，声楽，ピアノ，管楽器）やバレエも対象分野に含める。

伝統芸術になかなか若い人が入ってこない。伝統芸術の継承もこの事業の大切な部分である。

コンセール・マロニエで実施の音楽も全種目でないので、エスペールでは全分野対象がよい。

### 対象者の発掘について

## ア 募集の方法

応募の機会を平等に与えるために公募と推薦とする。

ジャンルの枠を定めなくて広く公募する。

## イ 選考方法

自分は今後何年かに何をやりたいのかを選考委員にアピールする方法はどうか。今後のプランに対して選考するようにすれば、ジャンルが異なっても共通の選考基盤になる。

プランと個人の履歴を選考していけば、ジャンルの違いがあってもプランを支持するかどうかで選考を考えられるのではないか。

コンセール・マロニエの場合、アーティストが集まりステップアップを狙ってコンクールに参加しているがエスペールの場合、分野が広いので対象者の活動歴など同じ尺度で諮るのが難しいのではないか。

全国レベルの評価ができる選考委員を選ぶことが必要である。

賞の魅力は選考委員にかかってくる。全国に名の通った人が選考委員となることで大きな賞となる。

選考では、今後の活動計画などを聞き取る面接も必要と思う。

今後の活動計画等を小論文で書き、応募する方法が良い。

大きな賞を他で受けてからエスペールで表彰する後追いではなく、難しいことではあるがエスペールからスタートして全国へ世界へとつながっていければと思う。

#### ウ 対象者のレベルと賞

高いレベルに設定してはどうだろうか。

レベルは一定の高さに保つべき。妥協して与えるものではない。

全国レベルをどこまで捉えるか、原石の段階では全国レベルになっているかどうか分からない。

全国レベルを最初から規定することと、この賞をどういう人に振り向けていくかということが矛盾しないところで接点を見出さざるを得ないのではないか。

賞も一つにするか、複数にするか。段階的に設けてそれぞれを顕彰するか、という問題もあるかと思う。

該当者がいないという問題もあるが、一本化して高いレベルに設定してはどうだろうか。

。

実際に事業を実施してみると、単数では収まらないことがあるので含みを持って複数としてはどうか。

全国レベルの人が初め県レベルにいて、徐々に力を付けて全国レベルに成長することはあまりない。

プロの活動（プロの活動を目指す）をしている人たちに対し一流の芸術家に育ていくために顕彰や助成をしていくことと思う。

この事業では、発展の可能性のある人を発掘するという大事な使命がある。可能性のある人を全国、世界レベルに繋がる可能性を育ててやる必要があると思う。

県レベルの人（全国では通用しない人）が幅を利かせているのはどうか、という批判がある。初めから全国レベルの人を対象にすべきではないかと思う。

### 3 若手芸術家の育成，支援について

#### 受賞者への育成，支援

賞金だけでなく一つの称号的なものを与えて社会的に認知していくことが必要である。

文化庁で実施しているような、芸術活動に対して資金を助成していく事業が相応しい。

21世紀に向けて、全国的にもアピールできるような内容の賞にしていくべき。

芸術の分野では、天才を早いうちに見出し、良い意味でのえこひいき的なサポートをして世界的レベルまで引き上げるといったことも必要かと思う。

#### ア 賞金

本人の申請に対して、援助額を決めていく方法がよい。

賞金ではなく、奨学金という捉え方で有能な人を育てるという方法がよい。

## イ 研修

育成・支援策を論じる場合，分野が広いので，同じようにするのは無理なのではないか。

## ウ 発表の機会，場の提供

若手芸術家の発表の場，自主活動の場として美術館等の施設が活かせないか。  
学校の空き教室を制作等の場として利用できないか。

## エ 自主活動に対する支援

一人の受賞者に対し，継続して賞金等を与えていく方法として，別な事業で出演料等として支払う。そうすることにより，継続した発表の機会もあり，市民への還元にもなる。  
アーティストの制作等の場として，空き教室を利用できないか。

発表の機会，場の提供や自主活動に対する支援等の期間

支援の方法として，別の事業の中で出演等の場をつくることにより継続した発表の機会もあり市民への還元ともなる。

支援の期間について，事業を組んでも行政の予算は年度であるので，一人の人に対して継続して支援していくことは難しいのではないか。

## 4 市民への鑑賞機会等の創出について

コンセールマロニエでは，最優秀賞に 100万円の副賞を授与しているが，全国を対象になぜ，そんなに多額のお金を使うのかという意見があった。

受賞だけで終わってしまったのでは，必ず同じような意見が出てくる。そこで受賞後，コンサートを催し，高いレベルの芸術を県民に鑑賞する機会を多く与えてもらう方法をとっている。これは，栃木県スタイルとして評価されている。市民に，還元することに多くの意味がある。

育てながら地元に戻元していくことに関して，受賞者の芸術は，子どもたちにとっても影響が大きいと思う。ぜひ子どもたちには還元を持ってほしい。

還元をおまけに付けるのではなく，受賞者にとって魅力的なものにしていければ良いと思う。

還元については，特に教育現場などで活用できるとよいと思う。

講座等でたとえ，教え方が下手であっても，指導方法が上手くなくても，その人が真剣に取り組んでいることが伝わるのが大切と思う。

## 5 その他

全国，世界で活躍する人を育てていくということであれば，名称についても配慮が必要かと思う。

事業の名称について，『宮エスペール』を『宇都宮エスペール』に変更することは，懇談会委員の総意であるので，ぜひ，検討をお願いしたい。

芸術関係で優秀な人たちが学校を卒業し宇都宮に戻ってきているが，活動の場が不十分。活動の場所や機会を多く持てるよう願う。

ホールやギャラリーといった施設がなければ，芸術は育たないと思う。ぜひ，施設の計画をお願いしたい。

200人～300人といった小ホールが街の真中にあり，交通の便が良く，外壁よりも内壁がきちんとしていて音響効果が良ければ，古い建物でも十分活用できると思う。集い合って喜び合うことから発して，初めて何かが生まれてくると思う。

この事業は，活動の場や制作の場を提供してくれるというイメージがあった。様々なジャンルから選ばれた人が，交流を持てる場があるとすばらしい。別なジャンルの人どうしが刺激しあって磨かれていくことは良いことと思う。

この事業でジャンルの違った若手芸術家どうしの交流する場を積極的に提案できればと思う。

### 第4回・5回懇談会の議題と意見は下記のとおり

#### 提言書の素案及び提言書について

選考方法は「書類等や面接の選考」という表現では曖昧である。

『選考方法は，「書類等での審査及び面接による選考」の表現とする。

公募は推薦も含めることであるから，分ける必要がないのではないか。

募集のところで，公募と推薦とするとあるが公募制にするという表現がよい。

募集の方法は，『公募（推薦も含む）』の表現とする。

若手芸術家の育成，支援の中で『市は，受賞者に対し，展覧会，コンサート等各分野に応じた「発表の機会を原則として3年以内に市内で提供（義務づけ）することが必要である』という表現とする。

選考は公平に行われることを切望する。

選考委員は全体を見渡せ，公平な立場の高い見識のある人が望まれる。